

ミニ・ディスクロージャー誌

平成19年9月中間期
営業のご報告

KIYO
FINANCIAL GROUP



株式会社紀陽ホールディングス

株式会社 紀陽銀行

目 次

- 1 ごあいさつ
- 2 紀陽銀行 中期経営計画
「ハート&ブレイン・アクションプラン」について
- 4 決算ハイライト
- 10 財務諸表
- 13 ネットワーク
- 14 地域の皆さまとともに
- 20 地域・社会貢献活動への取り組み
- 21 株式情報

株式会社 紀陽ホールディングス

設 立 日 平成18年2月1日
所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
資 本 金 583億5,000万円
事 業 の 内 容 銀行等子会社の経営管理、ならびにそれらに附帯する業務
上場証券取引所 東証・大証一部

株式会社 紀陽銀行

設 立 日 明治28年5月2日
所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
資 本 金 800億9,600万円
店 舗 数 102店（和歌山県67カ店、大阪府32カ店）
（奈良県2カ店、東京都1カ店）
従 業 員 数 2,050名（出向者を除く）

※平成19年9月30日現在



皆さまには、平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

お陰をもちまして、昨年10月10日の紀陽銀行と和歌山銀行の合併により新たな紀陽銀行が誕生してから1年が経過いたしました。これもひとえに皆さまのご支援とご愛顧の賜物であり、重ねて御礼申し上げます。

さて、グループの中核である紀陽銀行では現在、「お客さまから選ばれ続ける銀行」を目指し、第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」に取り組んでおります。

特に、お客さまとの接点の強化を重点施策として、営業拠点の新設や営業人員の増強に取り組んでおります。また、こうしたハード面での取り組みに加え、お客さまのご要望やニーズに応じたご提案をおこなうための課題解決型営業の実践を心がけております。

こうしたなか、平成19年9月中間期におきましては、預金、貸出金の業容面が順調に推移し、持株会社の紀陽ホールディングス連結、紀陽銀行単体ともに、順調に利益を計上することができました。

また、皆さまからより確固たるご信頼を頂戴するために、法令等遵守体制の更なる強化に努めるとともに、地域社会の一員として、全営業店へのAED（自動体外式除細器）設置や和歌山市内店舗での「子ども110番」活動の実施など社会貢献活動や環境保全活動にも取り組んでおります。

私どもを取り巻く環境は、ゆうちょ銀行の発足、異業種からの銀行業務への参入など新たな競争ステージを迎えつつありますが、私どもの財産でありますお客さまとの接点をより一層強化し、「お客さまから選ばれ続ける銀行」の実現に向けて役職員一丸となって努力してまいります。

皆さまには、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月



取締役社長

片山博臣

紀陽銀行 中期経営計画 「ハート&ブレイン・アクションプラン」について

第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」では、お客さまとの「フェース・ツー・フェース」の接点を大切に、グループ全体の力を結集した総合的な金融サービスのご提供により、「お客さまから選ばれ続ける」銀行を目指しております。

「お客さまから選ばれ続ける銀行」の実現に向けた計画のステップアップ

基本姿勢

多様かつ高度な
総合金融サービスのご提供

地域経済への貢献

経営基盤の強化

第3ステップ

平成21年
3月期

- 更なる飛躍に向けた体制整備の完了
(コア業務純益230億円の安定確保)
(新たな投資効果の実現)

第2ステップ

平成20年
3月期

- 「攻めの経営」への転換
営業体制の再構築による営業力強化と
経費削減効果の再投資

第1ステップ

平成19年
3月期

- 合併による徹底した効率化と経費削減効果の実現

- 19年3月期の経費削減計画5億円に対し、10億円の削減が実現

株式会社 紀陽ホールディングス
金融持株会社

株式会社 紀陽銀行
銀行業

紀陽情報システム株式会社
ソフトウェア開発業務等

KIYO
FINANCIAL
GROUP
紀陽フィナンシャルグループ

紀陽ビジネスサービス株式会社
事務代行等

阪和信用保証株式会社
信用保証業務

紀陽リース・キャピタル株式会社
リース業務・株式公開支援・コンサルティング

紀陽ビジネスファイナンス株式会社
融資業務

株式会社紀陽カード
クレジットカード業務・JCB/VISA

株式会社紀陽カードディーシー
クレジットカード業務・DC

和歌山銀カード株式会社
クレジットカード業務・UFJニコス

中期経営計画の進捗状況

地域のお客さまから確固たるご信頼を頂戴するために、よりご満足いただけるサービスや商品のご提供に取り組んでおります。

こうした取り組みを通じ、中期経営計画において目標とする経営指標の達成を目指しておりますが、平成19年9月末までの進捗状況は以下のとおりであります。

紀陽銀行単体

単位:億円

目標項目	平成18年9月期 実績*
規 模	預金残高(譲渡性預金含む)(末残)
	29,241
	貸出金残高(末残)
	20,127
	(うち ローン残高)
収益性	6,660
	預かり資産残高(末残)
	3,119
	(うち 投資信託残高)
	1,555
効率性	コア業務純益
	82
健全性	コア業務純益ROA(コア業務純益/総資産)
	0.52%
効率性	OHR(経費/業務粗利益)
	69.60%
健全性	不良債権比率
	7.49%

※旧和歌山銀行との二行合算ベース

紀陽ホールディングス連結

単位:億円

目標項目	平成18年9月期 実績
収益性	当期純利益
	46
健全性	自己資本比率
	9.93%
	TierI比率
	6.79%
	繰延税金資産対TierI比率
	33.0%

平成19年9月期 実績
31,577
21,989
7,074
3,891
2,041
112
0.66%
62.18%
5.31%

平成21年3月期 計画
3兆3,000億円以上
2兆2,000億円以上
7,800億円以上
5,400億円以上
2,600億円以上
230億円以上(通期)
0.68%以上
60%未満
4%台

平成19年9月期 実績
74
11.44%
8.51%
21.4%

平成21年3月期 計画
100億円以上(通期)
11%以上
8%以上
10%台

用語 解説

コア業務純益とは

預金、貸出金、有価証券などの利息収支である「資金利益」、各種手数料などの収支である「役務取引等利益」、外国為替、債券の売買損益などの収支である「その他業務利益」を合計した「業務粗利益」から「経費」と「一般貸倒引当金繰入額」を差し引いたものが「業務純益」です。さらに、「業務純益」から一般貸倒引当金繰入額、債券関係損益の影響を控除したものが「コア業務純益」となります。銀行の本来業務での収益を表す指標です。

OHRとは

業務粗利益に占める経費の割合を表し、効率性を示す指標のひとつです。

自己資本比率・TierI比率とは

自己資本比率は、信用リスク・アセット(総資産のうち貸倒の可能性のある資産)やオペレーショナル・リスク相当額(事務ミスなどから生じる損失に対して備えるべき額など)に対する資本金などの自己資本の割合を示します。

TierIは、資本金や利益剰余金など自己資本の中核を占めるもので、リスクアセットに対する割合は、健全性を示す指標のひとつです。

繰延税金資産とは

企業会計上の利益と課税所得が一致しない場合に生じるもので、企業会計上、将来負担すべき税負担を当期に前払いしたと考え資産計上するものです。

●紀陽ホールディングス連結

—— 経常利益は前年同期比57%、中間純利益は同59%増加しました ——

平成19年9月中間期の紀陽ホールディングス連結の業績は、紀陽銀行の業況が順調に推移したほか、不良債権処理費用も減少したことなどにより、経常利益が前年同期比57%（26億円）増加し71億円、中間純利益が同59%（27億円）増加し74億円となりました。

●紀陽銀行単体

（平成18年9月期の計数は旧和歌山銀行との合算）

	平成18年9月期	平成19年9月期	前期比
業務粗利益	278	295	17
経費（△）	193	183	△ 10
一般貸倒引当金繰入額（△）	△ 19	△ 21	△ 2
業務純益	104	132	28
コア業務純益	82	112	30
臨時損益	△ 51	△ 55	△ 4
うち不良債権処理額（△）	56	47	△ 9
経常利益	52	77	25
特別損益	△ 5	△ 46	△ 41
うち償却債権取立益	24	17	△ 7
うち親会社優先株式評価額（△）	—	55	55
中間純利益	45	45	0

単位:億円

■業務粗利益・コア業務純益

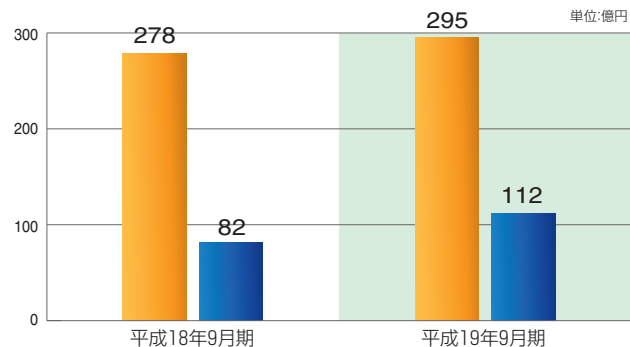
平成19年9月中間期の業務粗利益は、前年同期比17億円増加し、295億円となりました。

さらに、経費が同10億円減少したことなどにより、コア業務純益は前年同期比30億円増加し、112億円となりました。

	平成18年9月期	平成19年9月期	前年同期比
資金利益	256	258	2
役務取引等利益	33	38	5
その他業務利益	△ 11	△ 2	9
業務粗利益	278	295	17

単位:億円

■業務粗利益 ■コア業務純益



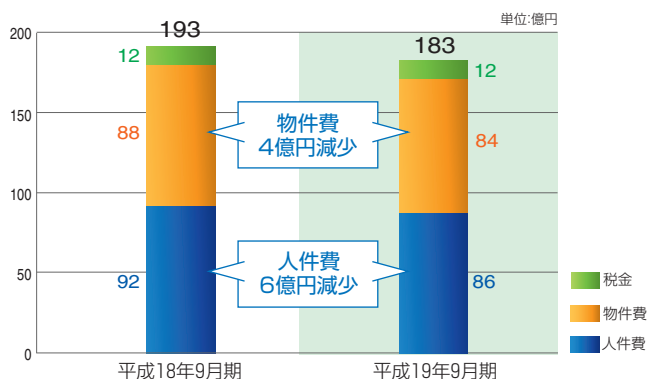
用語解説

業務粗利益とは

預金・貸出金業務や有価証券運用などによる利息収支である「資金利益」、投資信託販売手数料など各種手数料の収支である「役務取引等利益」、債券や外国為替の売買損益などの収支である「その他業務利益」の合計

経費

合併にともなう店舗統廃合など効率化により、経費は前年同期比10億円減少いたしました。



与信コスト

地域経済の景況回復や地価の下げどまり傾向などにより不良債権処理額が前年同期比9億円減少、一般貸倒引当金繰入額を合わせた平成19年9月中間期の与信コストは前年同期比10億円減少し26億円となりました。

さらに償却債権取立益17億円を含めたネット与信コストは前年同期比2億円減少し、9億円となりました。

単位:億円

	平成18年 9月期	平成19年 9月期	前年同期比
一般貸倒引当金	△ 19	△ 21	△ 2
不良債権処理額	56	47	△ 9
与信コスト	36	26	△ 10
償却債権取立益	24	17	△ 7
ネット与信コスト	11	9	△ 2

中間純利益

平成19年9月中間期において、親子間の資本関係の適正化を図ることを前提に、紀陽銀行は、保有している紀陽ホールディングス第三種優先株式の評価損(55億円)を特別損失に計上いたしました。

この結果、中間純利益は前年同期比横ばいの45億円となりました。

なお、グループ間で保有する自己株式に関する処理については、紀陽ホールディングス連結決算上の影響はありません。

業績予想

当社グループの核となる紀陽銀行において、営業部門の強化に取り組んでおり、引き続き貸出金、預金の増強を中心に安定的な収益基盤の確立に努めてまいります。また、企業業績が回復基調にあり、地価下落にも歯止めがかかりつつあることから、今後の与信コストは一定の範囲内に収まるものと見込んでおります。

こうしたなか、平成20年3月期の通期連結業績予想につきましては、当期純利益130億円と過去最高益(当社設立以前の紀陽銀行と旧和歌山銀行連結業績の合算108億円)を更新することを見込んでおります。

●預金等および預かり資産の状況

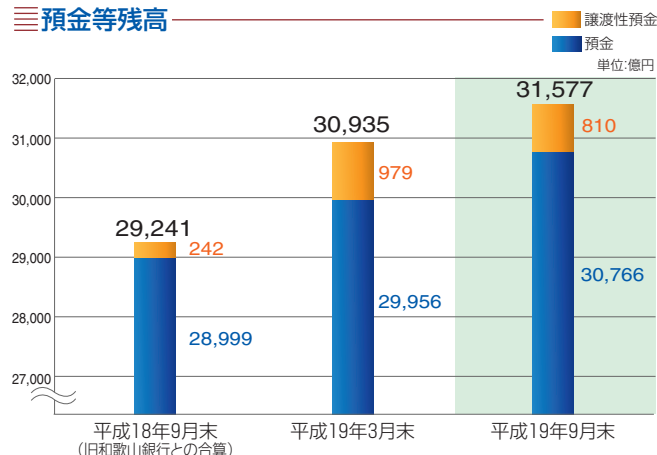
平成18年10月の旧和歌山銀行との合併以降、営業人員、営業拠点の増加などお客さまとの接点強化を進めるなかで、預金等および預かり資産残高は順調に増加しております。

預金等

平成19年9月末の預金残高は、前年同月末比1,766億円増加し、3兆766億円となりました。

また、譲渡性預金を加えた残高は、同2,335億円増加し3兆1,577億円となっております。

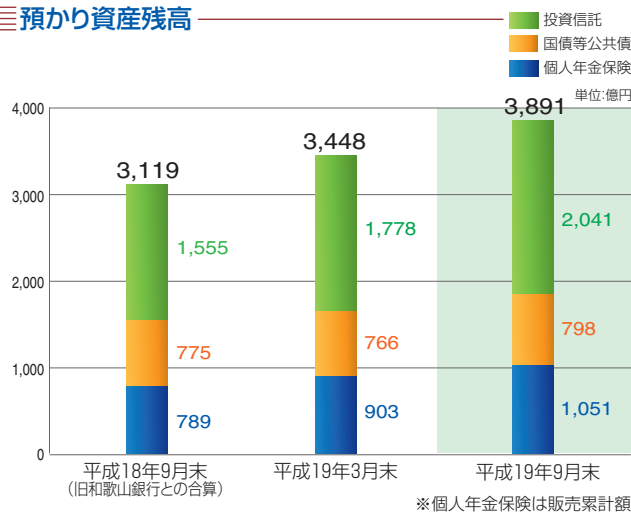
預金等残高



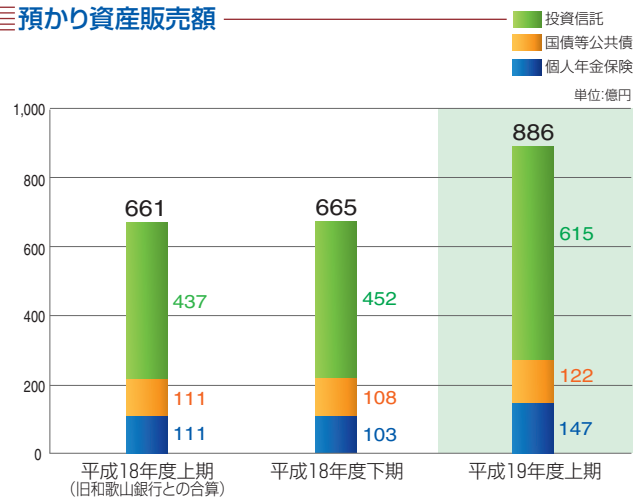
預かり資産

お客さまの資産運用ニーズが多様化するなか、投資信託、個人年金保険を中心に販売が好調に推移し、預かり資産残高は、前年同月末比772億円増加し、3,891億円となりました。

預かり資産残高



預かり資産販売額



●貸出金の状況

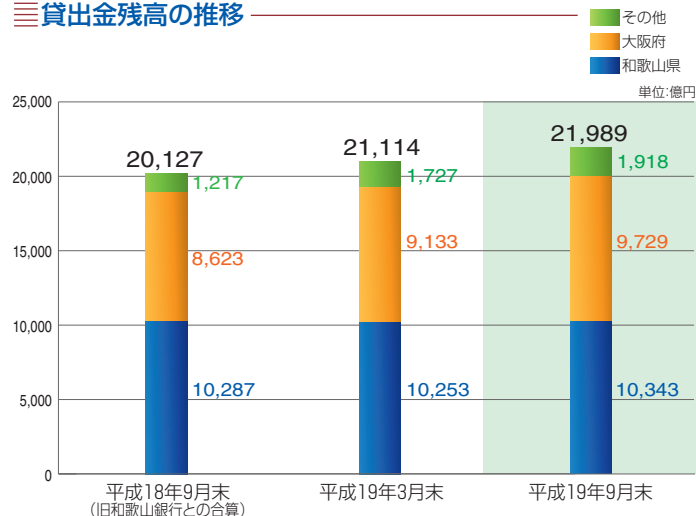
貸出金は、紀陽銀行の主要営業基盤である和歌山県、大阪府において、中小企業向け貸出の拡大と新たな取引先の開拓に努めるとともに、住宅ローンをはじめ個人のお客さまの資金調達ニーズにも積極的にお応えいたしました。

■貸出金残高

平成19年9月末の貸出金残高は前年同月末比1,862億円増加し、2兆1,989億円となりました。

こうしたなか、これまで減少傾向が続いておりました和歌山県内の貸出金につきましても、前年同月末比56億円増加いたしました。

≡貸出金残高の推移



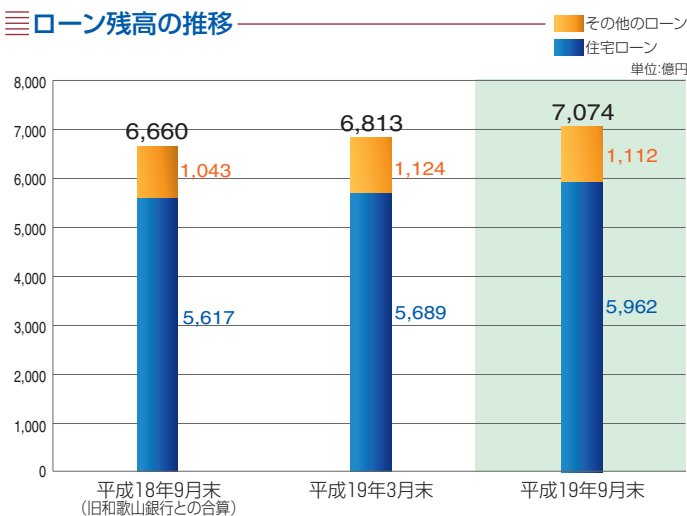
決算ハイライト

■ローン残高

ローン残高は前年同月末比414億円増加しました。

このうち、住宅ローン残高は前年同月末比345億円増加いたしました。

≡ローン残高の推移



自己資本比率

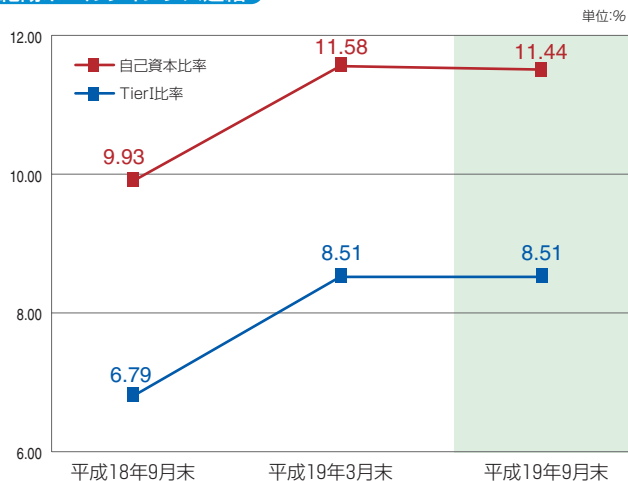
平成19年9月末の紀陽ホールディングス連結の自己資本額は、中間純利益の計上などにより、前期末比89億円増加（TierIは82億円増加）し、1,886億円となりました。

反面、事業性を中心に貸出金残高が大きく伸びたことなどから、リスクアセットは前期末比964億円増加しました。この結果、紀陽ホールディングス連結自己資本比率（第二基準）は、前期末比0.14%低下の11.44%となりました。なお、紀陽銀行単体の自己資本比率（国内基準）は、前期末比0.02%上昇の10.64%となりました。

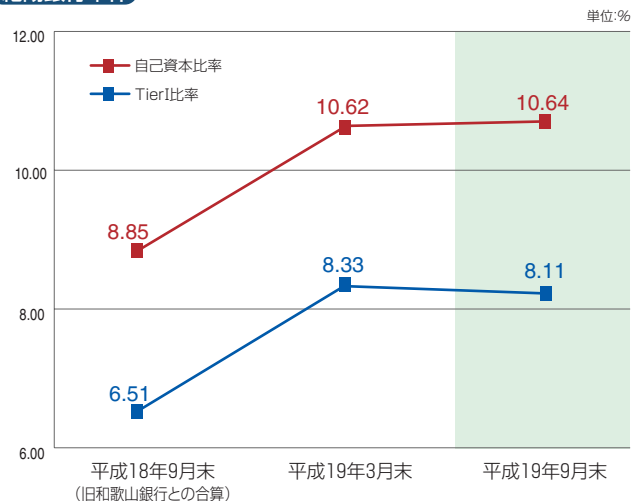
	自己資本比率	自己資本額	自己資本額		リスクアセット
			TierI	TierII	
紀陽ホールディングス 連結	11.44% (△0.14%)	1,886億円 (89億円)	1,403億円 (82億円)	483億円 (6億円)	16,483億円 (964億円)
紀陽銀行 単体	10.64% (0.02%)	1,749億円 (108億円)	1,332億円 (46億円)	485億円 (5億円)	16,427億円 (989億円)

※（ ）内は平成19年3月末対比

紀陽ホールディングス連結

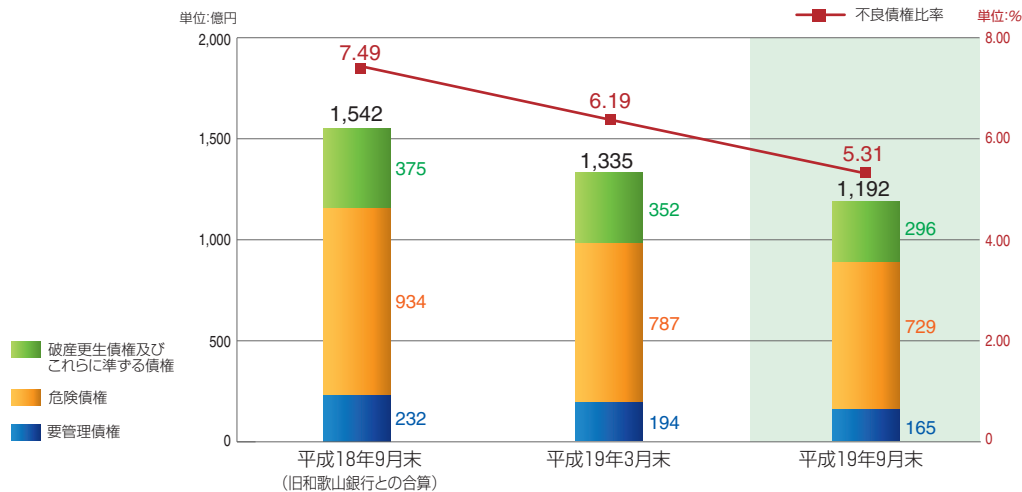


紀陽銀行単体



不良債権（金融再生法開示債権）

平成21年3月期までに不良債権比率を4%台にすることを目標に、不良債権額の削減に努めております。
この結果、平成19年9月末の不良債権残高は前期末比143億円減少し、1,192億円となりました。
また、不良債権比率は前期末比0.88%低下し、5.31%となりました。



不良債権の保全状況

平成19年9月末の不良債権総額1,192億円のうち92.0%は担保や引当金などで保全されております。

	債権額 (※1)	保全額	担保・保証等		保全率
			担保・保証等	引当額	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 (※2)	296	296	268	28	100.0%
危険債権 (※3)	729	696	485	211	95.4%
要管理債権 (※4)	165	103	61	42	62.5%
合計	1,192	1,096	814	282	92.0%

(※1) 貸出金、支払承諾見返、外国為替、銀行保証付私募債、貸付有価証券、仮払金等の合計
(※2) 破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権
(※3) 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権
(※4) 3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

紀陽ホールディングス(連結)

第3期中 中間連結貸借対照表

(平成19年9月30日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	71,619	預金	3,065,850
コールローン及び買入手形	95,415	譲渡性預金	71,092
債券貸借取引支払保証金	50,336	債券貸借取引受入担保金	8,281
買入金銭債権	6,919	借入金	22,545
商品有価証券	4,804	外国為替	45
有価証券	879,776	社債	16,000
貸出金	2,191,025	その他負債	23,131
外国為替	2,490	退職給付引当金	2,315
その他資産	20,357	役員退職慰労引当金	84
有形固定資産	39,892	預金払戻損失引当金	449
無形固定資産	17,052	支払承諾	26,025
繰延税金資産	30,092	負債の部合計	3,235,822
支払承諾見返	26,025	(純資産の部)	
貸倒引当金	△ 43,035	資本金	58,350
		資本剰余金	77,127
		利益剰余金	29,729
		自己株式	△ 12,591
		株主資本合計	152,614
		その他有価証券評価差額金	2,558
		繰延ヘッジ損益	△ 0
		評価・換算差額等合計	2,557
		少数株主持分	1,778
		純資産の部合計	156,951
資産の部合計	3,392,773	負債及び純資産の部合計	3,392,773

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第3期中 中間連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	58,350	77,128	24,398	△12,566	147,309	5,545	△ 3	5,542	1,792	154,644
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 2,095		△ 2,095					△ 2,095
中間純利益			7,425		7,425					7,425
自己株式の取得				△ 13	△ 13					△ 13
自己株式の処分		△ 0		4	3					3
連結子会社等の持分変動等に伴う自己株式の増減				△ 15	△ 15					△ 15
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 2,987	2	△ 2,984	△ 13	△ 2,998
中間連結会計期間中の変動額合計	—	△ 0	5,330	△ 24	5,304	△ 2,987	2	△ 2,984	△ 13	2,306
平成19年9月30日残高	58,350	77,127	29,729	△ 12,591	152,614	2,558	△ 0	2,557	1,778	156,951

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第3期中 中間連結損益計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	43,615
資金運用収益	31,333
(うち貸出金利息)	(24,246)
(うち有価証券利息配当金)	(6,199)
役務取引等収益	7,025
その他業務収益	3,200
その他経常収益	2,056
経常費用	36,423
資金調達費用	5,375
(うち預金利息)	(4,152)
役務取引等費用	1,992
その他業務費用	2,978
営業経費	19,582
その他経常費用	6,494
経常利益	7,192
特別利益	1,929
特別損失	716
税金等調整前中間純利益	8,405
法人税、住民税及び事業税	307
法人税等調整額	667
少数株主利益	4
中間純利益	7,425

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

紀陽ホールディングス（連結）

第3期中 中間連結キャッシュ・フロー計算書

（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

単位:百万円

科 目	金 額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	8,405
減価償却費	2,452
減損損失	146
のれん償却額	839
負ののれん償却額	△ 17
貸倒引当金の増減(△) 額	△ 2,865
退職給付引当金の増減(△) 額	△ 773
役員退職慰労引当金の増減(△) 額	84
預金払戻損失引当金の増減(△) 額	449
資金運用収益	△ 31,333
資金調達費用	5,375
有価証券関係利益(△)	1,913
為替差損益(△)	△ 359
固定資産処分損益(△)	31
商品有価証券の純増(△) 減	8,108
貸出金の純増(△) 減	△ 87,580
預金の純増減(△)	77,157
譲渡性預金の純増減(△)	△ 15,735
預け金(現金同等物を除く)の純増(△) 減	△ 10,000
コールローン等の純増(△) 減	842
債券貸借取引支払保証金の純増(△) 減	93,729
コールマネー等の純増減(△)	50
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	3,953
外国為替(資産)の純増(△) 減	△ 264
外国為替(負債)の純増減(△)	25
資金運用による収入	31,400
資金調達による支出	△ 3,978
その他	△ 2,862
小 計	79,196
法人税等の支払額	△ 753
営業活動によるキャッシュ・フロー	78,443
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△ 234,697
有価証券の売却による収入	109,666
有価証券の償還による収入	51,756
有形固定資産の取得による支出	△ 914
有形固定資産の売却による収入	27
無形固定資産の取得による支出	△ 780
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 74,942
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△ 2,095
少数株主への配当金の支払額	△ 4
自己株式の取得による支出	△ 13
自己株式の売却による収入	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,109
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	3
V. 現金及び現金同等物の増減(△) 額	1,394
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	56,225
VII. 現金及び現金同等物の中間期末残高	57,619

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

役員一覧

（平成19年9月30日現在）

株式会社 紀陽ホールディングス

取締役社長（代表取締役）	片 山 博 臣
専務取締役	古 出 哲 彦
常務取締役	瀧 川 千 秋
常務取締役	木 下 泰 明
取締役	阪 本 彰 央
取締役（社外取締役）	水 野 八 朗
監査役（常勤）	林 宏 喬
監査役（常勤）	羽 山 雅 典
監査役（非常勤・社外監査役）	松 川 雅 典
監査役（非常勤・社外監査役）	増 尾 穰 之
監査役（非常勤・社外監査役）	大 平 勝 之

株式会社 紀陽銀行

取締役頭取（代表取締役）	片 山 博 臣
専務取締役	古 出 哲 彦
常務取締役	瀧 川 千 秋
常務取締役	木 下 泰 明
常務取締役	雑 賀 均
取締役	米 坂 享
取締役	泉 清 映
取締役	松 岡 靖 之
取締役	上 野 隆 司
取締役	森 川 保 彦
監査役（常勤）	林 宏 喬
監査役（常勤）	羽 山 雅 典
監査役（非常勤・社外監査役）	松 川 雅 典
監査役（非常勤・社外監査役）	増 尾 穰 之
監査役（非常勤・社外監査役）	大 平 勝 之

■連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結子会社は9社、持分法適用会社は0社であります。

連結子会社	・株式会社紀陽銀行	・紀陽リース・キャピタル株式会社
	・紀陽情報システム株式会社	・株式会社紀陽カード
	・紀陽ビジネスサービス株式会社	・株式会社紀陽カードディーシー
	・阪和信用保証株式会社	・和歌山銀カード株式会社
	・紀陽ビジネスファイナンス株式会社	

紀陽銀行(単体)

第198期中 中間貸借対照表

(平成19年9月30日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	71,432	預金	3,076,643
コールローン	95,415	譲渡性預金	81,092
債券貸借取引支払保証金	50,336	債券貸借取引受入担保金	8,281
買入金銭債権	6,919	借入金	22,545
商品有価証券	4,804	外国為替	45
有価証券	886,939	社債	16,000
貸出金	2,198,937	その他負債	15,371
外国為替	2,490	退職給付引当金	2,292
その他資産	13,516	役員退職慰労引当金	84
有形固定資産	34,076	預金払戻損失引当金	449
無形固定資産	1,800	再評価に係る繰延税金負債	236
繰延税金資産	32,102	支払承諾	25,991
支払承諾見返	25,991	負債の部合計	3,249,034
貸倒引当金	△ 40,270	(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	32,357
		資本準備金	22,259
		その他資本剰余金	10,097
		利益剰余金	20,804
		利益準備金	2,757
		その他利益剰余金	18,047
		繰越利益剰余金	18,047
		株主資本合計	133,258
		その他有価証券評価差額金	1,852
		繰延ヘッジ損益	△ 0
		土地再評価差額金	348
		評価・換算差額等合計	2,201
		純資産の部合計	135,460
資産の部合計	3,384,494	負債及び純資産の部合計	3,384,494

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第198期中 中間株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

単位:百万円

	株主資本								評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計						
平成19年3月31日残高	80,096	22,259	10,097	32,357	2,279	16,281	18,561	131,015	5,074	△ 3	416	5,487	136,502
中間会計期間中の変動額													
剰余金の配当					477	△ 2,867	△ 2,389	△ 2,389					△ 2,389
中間純利益						4,565	4,565	4,565					4,565
土地再評価差額金取崩額						67	67	67					67
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)									△ 3,221	2	△ 67	△ 3,285	△ 3,285
中間会計期間中の変動額合計	-	-	-	-	477	1,765	2,243	2,243	△ 3,221	2	△ 67	△ 3,285	△ 1,042
平成19年9月30日残高	80,096	22,259	10,097	32,357	2,757	18,047	20,804	133,258	1,852	△ 0	348	2,201	135,460

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第198期中 中間損益計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	40,177
資金運用収益	31,292
(うち貸出金利息)	(24,058)
(うち有価証券利息配当金)	(6,347)
役務取引等収益	6,055
その他業務収益	764
その他経常収益	2,064
経常費用	32,464
資金調達費用	5,409
(うち預金利息)	(4,160)
役務取引等費用	2,192
その他業務費用	997
営業経費	18,030
その他経常費用	5,834
経常利益	7,713
特別利益	1,727
特別損失	6,354
税引前中間純利益	3,086
法人税、住民税及び事業税	25
法人税等調整額	△ 1,504
中間純利益	4,565

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

当行の営業エリア・店舗ネットワーク

紀陽銀行は、主要営業エリアである和歌山県、大阪府を中心に102店舗を設置し、両府県にまたがる店舗ネットワークを展開しております。

また、セブン銀行、ローソンとの提携により、全国のセブンイレブンやローソンなどに設置されたATMで紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけます。

	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	67	116
大阪府	32	29
奈良県	2	1
東京都、三重県	1	1
合計	102	147

※このほか、資産運用に関するコンサルティングデスク「紀陽プラザ」、インストアブランチ「iプラザ イズミヤ和歌山店出張所」、外貨両替専門の「関西国際空港出張所」、住宅ローンセンター（12カ所）、ビジネスサポートセンター（4カ所）を開設しております。

和歌山市中心部



東京支店

ネットワーク

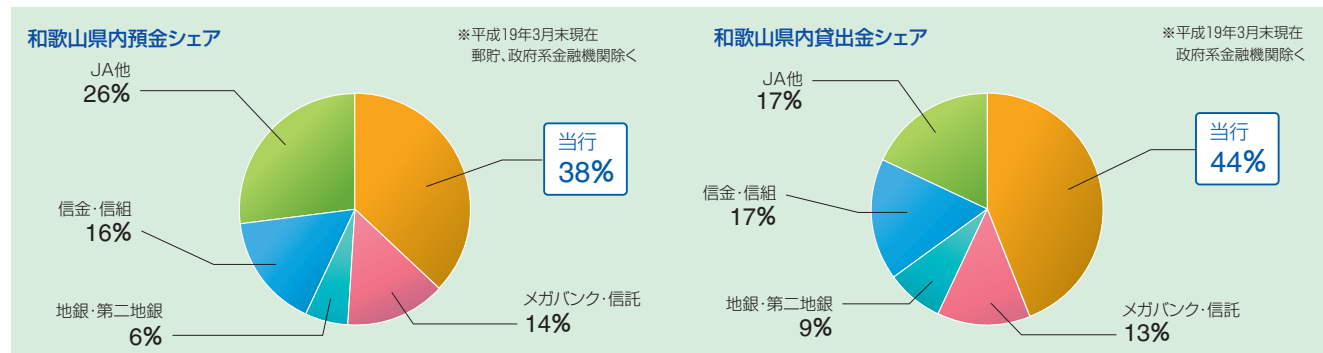
地域の皆さまとともに～預金、貸出金の状況～

預金・貸出金の和歌山県内シェア

紀陽銀行は和歌山県下に67店舗、大阪府下に32店舗を有し、両府県を主要な営業基盤としています。また、両府県に隣接する奈良県にも2店舗を出店しております。

特に、和歌山県では預金、貸出金ともにトップシェアをいただいております。紀陽銀行が営業を展開するうえで重要な基盤となっております。

地域のリーディングバンクとして、皆さま方のご信頼、ご期待にお応えし、地域の発展に向けて果たすべき役割は従来以上に重要なものであると認識しております。

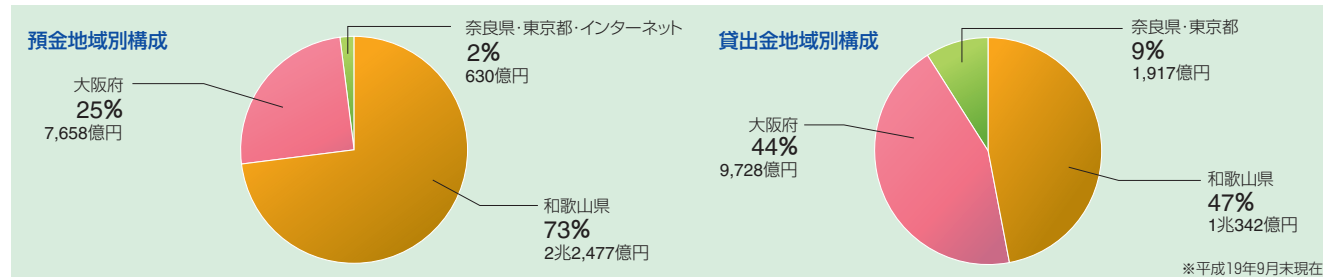


預金・貸出金の地域別構成

地域の皆さまの貯蓄、資産運用に関するニーズにお応えするとともに、企業や個人事業主の皆さまの資金需要に対し、円滑な資金のご提供に努めております。

平成19年9月末の総預金残高（譲渡性預金を除く）3兆766億円のうち、98%の3兆136億円を和歌山県、大阪府の店舗にてお預かりしております。また、新たなお客さまを開拓するため平成19年6月に開店いたしましたインターネット支店の預金残高は21億円となりました。

貸出金につきましても、和歌山県、大阪府の店舗での貸出金残高は2兆71億円となっており、総貸出金残高の91%を占めております。



■ 中小企業・個人のお客さまへの貸出の状況

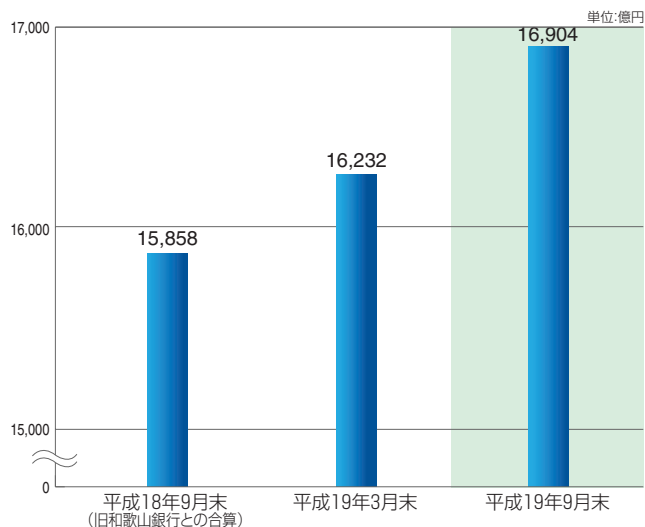
お客さまとの接点強化に向けた営業人員、営業拠点の増強に取り組むなかで、和歌山県、大阪府における中小企業等貸出金残高は、引き続き増加いたしました。

平成19年9月末の中小企業等貸出金残高は、前年同月末比1,045億円増加し1兆6,904億円となりました。

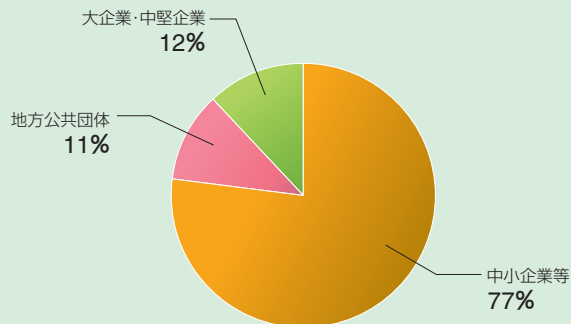
※中小企業等貸出金とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、サービス業、小売業および飲食店は5千万円）以下の会社または常用する従業員が300人（ただし、卸売業およびサービス業は100人、小売業および飲食店は50人）以下の会社および個人への貸出金

貸出金2兆1,989億円のうち、77%にあたる1兆6,904億円を地元の中小企業、個人のお客さまにご利用いただいております。

中小企業等貸出金の残高推移



中小企業・個人のお客さまへの融資の状況



※平成19年9月末現在

●地域密着型金融の取り組みについて

紀陽銀行では、中期経営計画の実践を通じ、地域密着型金融^(※)の推進に取り組んでおります。

【第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」の基本姿勢】

経営基盤の強化

地域経済への貢献

多様かつ高度な
総合金融サービスのご提供

中期経営計画の実践に向けた取り組み

- 法人や個人事業主のお客さまに対し、経営課題やニーズへの対応策をご提供する「課題解決型営業」の実践
- 地域のお客さまへのより充実した商品、サービスのご提供と利便性の向上のための営業体制の強化



地域密着型金融の趣旨に一致

※金融機関がお客さまとの間で親密な関係を長期間維持することにより、お客さまに関する情報を蓄積し、この情報を基に貸出等の金融サービスのご提供をおこなうことで展開するビジネスモデル

●法人・個人事業主のお客さまへの取り組み

経営相談・コンサルティング

創業・新事業展開や事業拡大、事業承継などお取引先のライフサイクルに応じた経営課題やニーズに対し、様々なご提案や情報のご提供をおこなっております。

また、産（企業）、学（大学等）、官（公的機関）のネットワークを活用し、創業や新事業展開に向けた取り組みをご支援しております。

経営相談・コンサルティング活動の実績

ビジネスマッチング

（販路・仕入先ご紹介、新分野進出パートナーご紹介、コンサルタントご紹介 等）

M&A仲介

株式公開支援

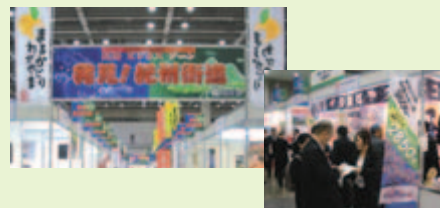
事業承継対策

政府系金融機関との協調融資 等

ビジネスマッチングへの取り組み

紀陽銀行のネットワークを活用し、販路・仕入先や新分野進出のパートナーなどをご紹介する「ビジネスマッチング」に積極的に取り組んでおります。

平成19年10月には、全国から約3万名が来場しました「東京ビジネス・サミット2007」への当行取引先55社の出展をサポートいたしました。



経営改善のお手伝い

お取引先の財務内容の改善および適正な事業運営に向けた経営改善計画の策定と実践をお手伝いしております。

また、中小企業再生支援協議会、RCC（整理回収機構）、政府系金融機関などの外部機関とも連携しながら事業再生計画の実現に取り組んでいる事例や、紀陽銀行も出資する再生ファンド「くろしお企業支援ファンド」など様々な手法を活用して、お取引先の抜本的な再生に取り組んでいる事例もあります。

こうした取り組みを通じ、平成19年度上期は29先の債務者区分がランクアップ^(※)いたしました。

※ご融資先を財務内容などにより正常先、要注意先、破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の5段階に区分し、経営改善や事業再生などにより上位のランクに引き上げること

円滑な資金のご提供

スコアリングモデルや紀陽銀行の内部格付を活用し、新たな担保や第三者保証人が不要の融資商品の拡充に努めております。

また、中小企業や個人事業主のお客さまに対する新たなスタイルの営業拠点である「ビジネスサポートセンター」を4カ所（本店、田辺、岸和田、堺）に設置し、専門スタッフが電話、FAXで融資のご相談を受け付けております。

今後も、お取引先の事業内容に即した円滑な資金のご提供をおこなうため、融資手法の多様化に取り組んでまいります。

地域応援団<プラス>	・対象は業歴3年以上の法人、個人事業主 ・最高3,000万円（個人事業主の方は1,000万円） ・担保は原則不要 ・第三者保証人不要
スーパー・セーブL	・対象は業歴2年以上の法人、個人事業主 ・最高3,000万円 ・担保不要 ・保証人不要（法人は代表者の方のみの保証） ・オリックス株式会社の保証

ビジネスサポートセンター

●紀陽ビジネスサポートセンター（本店自動サービスコーナー2階）	073(426)7117
●紀陽田辺ビジネスサポートセンター（田辺支店北隣り）	0120(331)209
●紀陽岸和田ビジネスサポートセンター（JR東岸和田駅前）	0120(221)603
●紀陽堺ビジネスサポートセンター（紀陽堺ビル4階）	0120(191)560

●個人のお客さまへの取り組み

■資産運用に関するご相談

預金をはじめ投資信託、個人年金保険、国債などお客さまのニーズに応じた商品のご提案に努めております。窓口担当者や営業担当者に加え、42カ店に資産運用アドバイザーを配置し、ゆっくりとご相談いただける専用ブースを設置いたしました。

今後もお客さまの投資経験や資産状況などに応じて、お客さまに最適な商品をご紹介します。

紀陽ハートフルプラザ

ゆったりと資産運用に関するご相談をしていただくため、個人のお客さま専用の店舗として設置しております。現在、和歌山市、泉大津市に1店舗ずつ出店しておりますが、今後も順次出店を進める予定です。

インターネット支店

銀行の窓口にお越しいただくことなく、パソコンで24時間定期預金のお申込を受け付けております。

■各種ローン

お客さまの様々なニーズにお応えするため、カードローン、マイカーローン、学資ローン、住宅ローンなど各種ローン商品をご用意しております。

また、12カ所の住宅ローンセンターでは専門のスタッフが住宅ローンのご相談やお申込を受け付けており、4カ所は日曜日も営業しております。

住宅ローンセンター		
日曜オープン	●紀陽住宅ローンセンター（本店南館1階）	073(426)7155
日曜オープン	●紀陽堺住宅ローンセンター（紀陽堺ビル3階）	072(222)9322
日曜オープン	●紀陽二色の浜住宅ローンセンター	072(433)4741
	●紀陽西田辺住宅ローンセンター（帝塚山クレバービル2階）	06(6694)9801
	●紀陽藤井寺住宅ローンセンター（藤井寺フコク生命ビル5階）	072(937)5601
日曜オープン	●紀陽東岸和田住宅ローンセンター（東岸和田支店2階）	072(428)0540
	●紀陽鶴見住宅ローンセンター（尾本ビル5階）	06(6934)9600
	●紀陽八尾住宅ローンセンター（イースタンビル2階）	072(924)9820
	●紀陽江坂住宅ローンセンター（太陽生命江坂ビル9階）	06(6380)9701
	●紀陽堂島住宅ローンセンター（堂島ランドビル5階）	06(6343)1251
	●紀陽狭山住宅ローンセンター（狭山支店2階）	072(368)7200
	●紀陽大和高田住宅ローンセンター（岡本ビル3階）	0745(53)3541

日曜オープン 印は日曜日も営業（午前10時から午後4時まで）しております。

■インターネットバンキングのセキュリティ強化

平成19年8月より、「個人のお客さま向けインターネットバンキング」を安心してご利用いただくことを目的に携帯電話を利用した「ワンタイムパスワード」(*)を導入いたしました。

これにより、インターネットバンキングにおける「本人なりすまし犯罪」等の不正取引を防止することができます。

※お客さまの携帯画面上に表示された一度限りのパスワードを利用して、インターネットバンキングの本人認証を行います。万一パスワードが不正行為により盗まれたとしても、1分後にはワンタイムパスワードは無効となることから「本人なりすまし」による不正取引など、金融犯罪への対策として、きわめて有効な手段となります。

●地域のお客さまの利便性向上

■ATMネットワークの充実

従来のローソンATMとの提携に加え、平成19年7月よりセブン銀行との提携を開始いたしました。これにより、全国のセブンイレブンなどに設置されている12,000台以上のセブン銀行ATMで紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけることとなりました。



■お客さまによりご満足いただくために

紀陽銀行では、CS（お客さま満足度）向上を経営の重要課題と位置づけており、全営業店に「ご意見箱」を設置し、お客さまからのご要望やご意見を頂戴しております。

また、外部調査員による「CSモニタリング調査」を実施し、お客さまに快適にご利用いただける店舗づくりに努めております。

お客さまからいただいた意見をもとに、これまでに店舗外ATMの新設や稼働時間延長、ATMへの通帳繰越機能追加などの取り組みをおこなっております。

地域・社会貢献活動への取り組み

「子ども110番」活動

地域の子どもたちを狙った犯罪を未然に防止するため、平成19年9月より和歌山県警察本部や警備保障会社との連携のもとで、和歌山市内の住宅地に立地し、通学路に近い11カ店で「子ども110番」活動への取り組みを開始いたしました。



全営業店へのAED設置

紀陽銀行にご来店いただくお客さまや地域の皆さまに、万一救命措置が必要となった場合に備えて、全営業店のATMコーナーや住宅ローンセンター、本店など115カ所にAED（自動体外式除細動器）を設置いたしました。

環境保全・美化活動

地域社会の一員として、私どもの活動基盤である地域の環境保全に向けた取り組みをおこなっております。

和歌山県「企業の森」事業

森林保全活動を通じ地域の環境保護に貢献するため、役職員が伐採後の森林への広葉樹の植樹や下草刈り活動を行っております。

平成18年の取り組み開始以降、これまでに約2,000本の植樹を実施しております。今後も約1,000本の植樹を実施する予定ですが、本活動により、年間約5トンの二酸化炭素削減効果が見込まれるといわれております。



小さな親切運動

紀陽銀行「小さな親切の会」では、地域の清掃活動に参加するなど環境美化に取り組んでおります。

紀陽文化財団

紀陽文化財団では、地域の皆さまに音楽や芸術に接していただく機会をご提供するため、クラシックコンサートの開催や和歌山県立近代美術館・博物館への無料ご招待を実施しております。

今後も地域に必要とされる財団を目指して、活動を充実させてまいります。

地域行事への参加、各種大会への協賛

「和歌浦ベイマラソン With JAZZ」の運営ボランティアや「紀州おどり」など地域行事に積極的に参加することを通じて、地域の皆さまとの交流を深めております。

■発行済株式総数

普通株式	740,837,614株
第一種優先株式	266,000株
第二種優先株式	5,042,000株
第三種優先株式 ^(※)	24,000,000株
第4回第一種優先株式	45,000,000株

■株主総数

普通株式	29,096名
第一種優先株式	5名
第二種優先株式	583名
第三種優先株式 ^(※)	1名(株式会社 紀陽銀行)
第4回第一種優先株式	1名(株式会社 整理回収機構)

※第三種優先株式は、平成19年11月5日に株式会社紀陽ホールディングスが株式会社紀陽銀行から買い取り、消却を行っております。

■配当方針 利益配分につきましては、銀行持株会社の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。平成20年3月期につきましては、普通株式1株につき3円、その他の優先株式についてはそれぞれ所定の優先配当金を期末に一括してお支払いする予定であります。

■株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

■株式事務取扱場所・取次所

〈 事 務 取 扱 場 所 〉 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話0120-094-777(通話料無料)

〈 取 次 所 〉 三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店

単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(1,000株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。

詳細につきましては、上記〈事務取扱場所〉または〈取次所〉までお問い合わせ下さい。



株式会社 紀陽ホールディングス

和歌山市本町1丁目35番地
<http://www.kyfg.com/>

株式会社 紀陽銀行

和歌山市本町1丁目35番地
<http://www.kiyobank.co.jp/>

平成19年12月発行

株式会社 紀陽ホールディングス グループ企画部 広報グループ

〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地 TEL.073-426-7133

本誌は環境に配慮した
植物性大豆油インキと
再生紙を使用しています。

